

音楽全般・音楽概念

クック, ニコラス 『音楽とは：ニコラス・クックが語る 5 つの視点』 福中冬子 (訳)

東京：音楽之友社 2022 年

椎名亮輔 (編著), 三島郁, 筒井はる香, 福島睦美 『音楽を考える人のための基本文献 34』

東京：アルテスパブリッシング 2017 年

シェーファー, レーモンド・マリー 『世界の調律：サウンドスケープとはなにか』 鳥越

けい子, 小川博司, 庄野泰子, 田中直子, 若尾裕 (訳) 東京：平凡社 2006 年

ダールハウス, カール 『音楽史の基礎概念』 角倉一朗 (訳) 東京：白水社 2015 年

徳丸吉彦 『音楽とはなにか：理論と現場の間から』 東京：岩波書店 2008 年

鳥越けい子 『サウンドスケープ：その思想と実践』 東京：鹿島出版会 1997 年

日本音楽学会 (編) 『音楽史事典』 東京：丸善出版 2025 年

福中冬子 『ポストモダンの音楽解釈』 東京：東京藝術大学出版会 2021 年

Bohlman, Philip V. *The Cambridge history of world music*. Cambridge University Press, 2017.

Leppert, Richard, Susan McClary. *Music and society: the politics of composition, performance, and reception*. Cambridge: New York: Cambridge University Press, 1987.

音楽史

グラウト, ドナルド・ジェイ, クロード・V・パリスカ 『新西洋音楽史 (上) (中) (下)』

戸口幸策, 津上英輔, 寺西基之 (訳) 東京：音楽之友社 1998 年

村田千尋 『西洋音楽史再入門：4 つの視点で読み解く音楽と社会』 東京：春秋社 2016 年

村田千尋 『図表とともに学ぶ 西洋音楽史概説』 東京：春秋社 2026 年

Burkholder, J. Peter, Donald Jay Grout, Claude V. Palisca. *A history of Western music*. Tenth edition. New York: W.W. Norton & Company, 2019.

音楽史記述・時代区分

松本直美 『ミュージック・ヒストリオグラフィー：どうしてこうなった？音楽の歴史』

東京：ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングスミュージックメディア部 2023 年

ル=ゴフ, ジャック 『ヨーロッパは中世に誕生したのか』 菅沼潤 (訳) 東京：藤原書店 2014 年

ル=ゴフ, ジャック 『時代区分は本当に必要か?: 連続性と不連続性を再考する』 菅沼潤 (訳) 東京：藤原書店 2016 年

資料研究

グリーア, ジェイムズ 『楽譜の校訂術：音楽における本文批判：その歴史・方法・実践』

高久桂（訳） 東京：道和書院 2023年

Strunk, W. Oliver and Leo Treitler. *Strunk's Source Readings in Music History*. New York: Norton, 1998.

音楽理論

東川清一 『音楽理論入門』 東京：筑摩書房 2017年

西田紘子, 安川智子(編著), 大愛崇晴, 関本菜穂子, 日比美和子 『ハーモニー探究の歴史：思想としての和声理論』 東京：音楽之友社 2019年

美学

今道友信（編） 『西洋美学のエッセンス：西洋美学理論の歴史と展開』 東京：ペリカン社 1994年

今道友信（編） 『精神と音楽の交響：西洋音楽美学の流れ』 東京：音楽之友社 1997年

小田部胤久 『西洋美学史』 東京：東京大学出版 2009年

ダールハウス, カール 『絶対音楽の理念』 杉橋陽一（訳） 東京：シンフォニア 1986年

ボンズ, マーク・エヴァン 『絶対音楽：その理念史』 堀朋平, 西田紘子（訳） 東京：春秋社 2026年

吉田寛 『「音楽の国ドイツ」の系譜学1 「音楽の国ドイツ」の神話とその起源：ルネサンスから十八世紀』 東京：青弓社 2013年

吉田寛 『「音楽の国ドイツ」の系譜学2 民謡の発見と「ドイツ」の変貌：十八世紀』 東京：青弓社 2013年

吉田寛 『「音楽の国ドイツ」の系譜学3 絶対音楽の美学と分裂する「ドイツ」：十九世紀』 東京：青弓社 2015年

オペラ

岡田暁生 『オペラの終焉：リヒャルト・シュトラウスと「バラの騎士」の夢』 東京：筑摩書房 2013年

チャンパイ, アッティラ, ディートマル・ホラント 『名作オペラボックス15 魔弾の射手：ウェーバー』 武川寛海（リブレット対訳）, 久保田慶一（本文訳） 東京：音楽之友社 1988年

チャンパイ, アッティラ, ディートマル・ホラント 『名作オペラボックス23 ニュルンベルクのマイスタージンガー：ワーグナー』 渡辺護（リブレット対訳）, 三瓶憲彦, 山地良造（本文訳） 東京：音楽之友社 1988年

長木誠司 『オペラの20世紀：夢のまた夢へ』 東京：平凡社 2015年

デッラ・セータ, ファブリツィオ 『19世紀イタリア・フランス音楽史』 園田みどり(訳)
東京：法政大学出版局 2024年

Fulcher, Jane F. *The nation's image: French grand opera as politics and politicized art*. Cambridge University Press, 2002.

音楽形式

ボンズ, マーク・エヴァン 『ソナタ形式の修辞学：古典派の音楽形式論』 土田英三郎
(訳) 東京：音楽之友社 2018年

ローゼン, チャールズ 『古典派音楽の様式：ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン』
大久保賢, 中村真(訳) 東京：音楽之友社 2021年

Hepokoski, James and Warren Darcy. *Elements of sonata theory: norms, types, and deformations in the late-eighteenth-century sonata*. New York; Oxford: Oxford University Press, 2006.

音楽分析

キャドウォーラダー, アレン, デイヴィッド・ガニエ 『調性音楽のシェンカー分析』 角
倉一朗(訳) 東京：音楽之友社 2013年

久保田慶一 『音楽分析の歴史：ムシカ・ポエティカからシェンカー分析へ』 東京：春
秋社 2020年

小鍛冶邦隆 『作曲の技法：バッハからヴェーベルンまで』 東京：音楽之友社 2008年
ナティエ, ジャン=ジャック 『音楽記号学』 足立美比古(訳) 東京：春秋社 2005年
ハキム, ナジ, マリ=ベルナデット・デュフルセ, 野平一郎(日本語版監修) 『音楽アナリ
ーゼのための実践ガイド』 野平多美, 伊藤靖浩, 横川晶子(訳) 東京：音楽之友社
2022年

Larue, Jan Larue edited by Marian Green Larue. *Guidelines for Style Analysis*. Harmonie Park Pr.,
2011.

Ratner, Leonard G. *Classic music: expression, form, and style*. Schirmer Books, 1980.

Ratz, Erwin. *Einführung in die musikalische Formenlehre: über Formprinzipien in den Inventionen
und Fugen J. S. Bachs und ihre Bedeutung für die Kompositionstechnik Beethovens*. Universal
Edition, 1973.

受容史

デノーラ, ティア 『つくられた天才：ベートーヴェンの才能をめぐる社会学』 丸山瑤子
(訳) 東京：春秋社 2024年

ボンズ, マーク・エヴァン 『「聴くこと」の革命：ベートーヴェン時代の耳は「交響曲」
をどう聴いたか』 近藤譲, 井上登喜子(訳) 東京：アルテスパブリッシング 2015
年

ボンズ, マーク・エヴァン 『ベートーヴェン症候群：音楽を自伝として聴く』 堀朋平, 西田紘子 (訳) 東京：春秋社 2022 年

渡辺裕 『聴衆の誕生：ポスト・モダン時代の音楽文化』 東京：中央公論新社 2012 年

音楽文化史

ウェーバー, ウィリアム 『音楽と中産階級：演奏会の社会史』 城戸朋子 (訳) 東京：法政大学出版局 2015 年

ウェーバー, ウィリアム 『音楽テイストの大転換：ハイドンからブラームスまでの演奏会プログラム』 松田健 (訳) 東京：法政大学出版局 2016 年

安川智子, 藤田茂 (編著), エヴェレット宇野弥生, 長木誠司 (コンサルティング・エディター) 『間文化性から音楽を考える』 東京：音楽之友社 2026 年

音楽と政治

鈴木淳子 『ヴァーグナーと反ユダヤ主義：「未来の芸術作品」と 19 世紀後半のドイツ精神』 東京：アルテスパブリッシング 2011 年

田崎直美 『抵抗と適応のポリトナリテ：ナチス占領下のフランス音楽』 東京：アルテスパブリッシング 2022 年

リーヴィー, エリック 『第三帝国の音楽』 望田幸男 (監訳), 田野大輔, 中岡俊介 (訳) 名古屋：名古屋大学出版会 2000 年

音楽とジェンダー

小林緑 『女性作曲家列伝』 東京：平凡社 1999 年

ホフマン, フライア 『楽器と身体：市民社会における女性の音楽活動』 阪井葉子, 玉川裕子 (訳) 東京：春秋社 2004 年

マクレアリ, スーザン 『フェミニン・エンディング：音楽・ジェンダー・セクシュアリティ』 女性と音楽研究フォーラム (訳) 東京：新水社 1997 年

Koskoff, Ellen, foreword by Suzanne Cusick. *A feminist ethnomusicology: writings on music and gender*. Urbana, Ill.: University of Illinois Press, 2014.

Magrini, Tullia, ed. *Music and gender: perspectives from the Mediterranean*. Chicago: University of Chicago Press, 2003.

古楽

アーノンクール, ニコラウス 『古楽とは何か：言語としての音楽』 樋口隆一, 許光俊 (訳) 東京：音楽之友社 1997 年

ヘインズ, ブルース 『古楽の終焉：HIP〈歴史的知識にもとづく演奏〉とはなにか』 大竹尚之 (訳) 東京：アルテスパブリッシング 2022 年

日本の音楽教育

- 奥中康人 『国家と音楽：伊澤修二がめざした日本近代』 東京：春秋社 2008年
東京音楽大学創立百周年記念誌刊行委員会（編），武石みどり（監修） 『音楽教育の礎：
鈴木米次郎と東洋音楽学校』 東京：春秋社 2007年

言葉と音楽

- 大森晋輔 『フランスの詩と歌の愉しみ：近代詩と音楽』 東京：東京藝術大学出版会
2012年
ゲオルギアーデス, T.G. 『音楽と言語』 木村敏（訳） 東京：講談社 1994年
杉山正樹 『やさしいフランス詩法』 東京：白水社 1981年
原大地 『牧神の午後：マラルメを読もう』 横浜：慶應義塾大学教養研究センター，東
京：慶應義塾大学出版会（発売） 2011年
山田兼士 『ドビュッシー・ソング・ブック：対訳歌曲詩集』 大阪：湊標 2013年
ルテール, エヴラン 『フランス歌曲とドイツ歌曲』 小松清, 二宮礼子（訳）東京：ネッ
トアドバンス 2013年

ソースリーディング（音楽・美学・文学）

- アリストテレス 『政治学』 三浦洋（訳） 東京：光文社 2023年
カント, イマヌエル 『判断力批判』 篠田英雄（訳） 東京：岩波書店 1964年
—— 『判断力批判：訳と詳解』 小田部胤久（訳） 東京：東京大学出版会 2024年
シャトーブリアン, フランソワ＝ルネ・ド 『ルネ』 湊野ゆり子（訳） 東京：大学書林
1999年
スタール, アンヌ・ルイズ・ジェルメーヌ・ド 『ドイツ論』 梶谷温子, 中村加津, 大竹
仁子, エレーヌ・ド・グロート（訳） 諏訪：鳥影社 1996-2002年
バーニー, チャールズ 『チャールズ・バーニー音楽見聞録：ドイツ編』 小宮正安（訳）
東京：春秋社 2020年
—— 『チャールズ・バーニー音楽見聞録：フランス・イタリア編』 今井民子, 森田義之
（訳） 東京：春秋社 2021年
パノフスキー, エルヴィン 『イデア：美と芸術の理論のために』 伊藤博明, 富松保文（訳）
東京：平凡社 2004年
ハンスリック, エドゥアルト 『音楽美論』 渡辺護（訳） 東京：岩波書店 1960年
プラトン 『国家』 藤沢令夫（訳） 東京：岩波書店 2008年
ヘーゲル, ゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリヒ 『美学講義』 長谷川宏（訳） 東京：
作品社 1996年（音楽については、下巻第3部第2章を参照のこと）
ホフマン, エルンスト・テオドル・アマデウス 『ドイツ・ロマン派全集 第13巻 ホフ

- マン II』 前川道介, 伊狩裕, 鈴木潔 (訳) 東京 : 国書刊行会 1989 年 より「クラ
イスレリアーナ」
- マッテゾン, ヨハン 『「新しく開かれたオーケストラ」(1713 年) : 全訳と解説』 村上
曜 (編著・訳) 小金井 : 道和書院 2022 年
- ユゴー, ヴィクトル 『クロムウェル・序文、エルナニ』 西節夫, 杉山正樹 (訳) 東京 :
潮出版社 2001 年 より「クロムウェル 序文」
- ルソー, ジャン=ジャック 『言語起源論 : 旋律と音楽的模倣について』 増田真 (訳) 東
京 : 岩波書店 2016 年